

「悲田院長吏文書」と大坂の非人組織

日時 2023年5月26日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 高久 智広（研究員、文学部教授）

新たな史料の発見は、歴史像を大きく塗り替え、そして豊かにすることがある。2000年代に入り、改めてその存在が確認された「悲田院長吏文書」はまさにそうした史料の一つである。「悲田院長吏文書」は、大坂の非人組織に関する1200点に及ぶ史料群で、その組織についてはもちろんのこと、近世都市大坂、さらには大坂町奉行所による支配の在り方そのものについても再考を促すものであった。

近世社会において、大坂の非人たちは天王寺、鳶田、道頓堀、天満の四か所に設けられた垣外と呼ばれる集住地に居住し、ここに仲間組織を形成した。この四垣外からなる仲間組織は、総体としては四ヶ所と称される。各垣外には長吏一人と小頭五人が置かれ、彼らは垣外仲間の指導・運営機関を構成した。大坂の非人たちは、町方における勧進を主な生活の糧とする一方で、町方や支配権力からは不断に市中に流入する乞食・貧人（野非人）を取り締まる役割、さらには治安の維持を要請されていく。さらに、近世中後期には摂津・河内、播磨三国の村々が村限りの治安維持を目的として抱えた非人番をも動員し、西国にまで及ぶ広域的な犯罪捜査や様々な情報収集活動にも携わるようになっていく。彼らはその過程で、御用を媒介として大坂町奉行所との密接度を高めていくとともに、自らの身分や由緒についても主張していくようになる。

本講座では、大坂町奉行所との関係から彼らが当時の社会においていかなる役割を担っていたのか、そして自らの身分や由緒についてどのように考えていたのかを、この「悲田院長吏文書」をもとに書いてみたい。

* * *

●聴講無料（定員200名／先着順）＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前に受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席があります場合、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。

手話通訳が必要な場合は、5月18日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。

第113回 10月27日（金）13：00 『『戦争孤児』を生きる』

第114回 11月24日（金）13：00 「なぜCMにおける女性像をめぐって『炎上』が起きるのか」（仮題）

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室（予定）



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>